

二本木町内会は、令和4年度に 「地区防災計画」を策定しました！

地区防災計画とは？

地区防災計画は、地域住民による自発的な防災活動であり、東日本大震災を契機に平成25年に創設されました。

過去の災害において避難や救命救助などに大きな役割を果たしてきた地域での助け合い、支え合いの「共助の力」を育む取り組みです。

計画策定までの流れ

町内会役員、組長、民生委員、子ども会などが地域の代表として集まり、被災地における支援活動の経験が豊富な認定NPO法人レスキューストックヤードの協力を得て、ワークショップ（話し合い）を行いました。

大規模な風水害や地震の発生が危惧されるなか、地区の特性に応じた防災上の課題について積極的な意見交換を行い、令和5年度以降に取り組む防災活動の内容を作成しました。

ワークショップ1「地区の特性の確認」

- ・ **強み**：地域行事に中学生など多世代が参加
海抜が高く、水田も多いため、水害に強い
- ・ **課題**：南海トラフ地震で震度6強の揺れ



ワークショップ2「災害時の課題の抽出」

- ① **避難のルート、場所、方法**
どこに、どうやって逃げれば良いの？
安否確認は誰がどう行うの？
- ② **避難生活**
避難所ってどんな場所で、どんな役割があるの？
家や地域で何を備蓄すればいいの？
- ③ **避難行動要支援者の避難**
いざという時一人で逃げられない
高齢者、障がい者、子ども、外国人などは、
どうやって避難すれば良いの？



ワークショップ3・4「防災活動メニューのアイデア出しと企画書の作成」




災害時の課題に対して、みんなで、今後地区で取り組みたい防災活動のアイデアを出しました。これをもとに6つの防災活動メニューの企画書を作成しました！



企画は裏面を見てね！

二本木町内会でこれから取り組む防災企画

この企画をもとに、来年度から二本木町内会の防災活動を進めます！

順位	企画のなまえ	概要
1位	避難行動要支援者 避難誘導手引き (マップ)	<p>マップの作成 避難所までの安全な避難経路を確認し、マップを作成する。</p> <p>避難行動要支援者（高齢者や障がい者など）の把握 避難誘導に必要なお手伝いの内容や人数、道具などを確認、名簿を作る。</p> <p>避難行動要支援者に避難方法の説明し、マップを配布する</p> 
2位	避難所展示	<p>町内運動会で避難所展示を実施 小学校に、被災地の写真や防災に役立つグッズ、段ボールベッド、災害時用トイレ、防災倉庫の中身などを展示する。</p> <p>体験コーナーの設置 実際に段ボールベッドに横になったり、手作りでランタンを作ったりして楽しく体験する。</p> 
3位	地震です！ 大丈夫ですか？	<p>地域の一時避難場所を決める 一時避難所に行けない場合は、自宅近くの安全な場所を確認する。</p> <p>避難行動要支援者をサポートする 民生委員と中学生で支援チームを作り、安否確認や避難誘導をサポートする。</p> 

4位 備蓄品おすすめリスト作成会

- ・新聞やポリ袋など、身近にあるものを工夫し、災害時の便利グッズとして活用する方法を紹介する。
- ・高齢者や障がい者、乳幼児でも食べやすい非常食のレシピや、常備食を非常食として活用する考え方を紹介する。
- ・アンケートで防災グッズの面白いアイデアや、自家菜園でとれる野菜（自然の備蓄庫）の種類などを聞き、防災訓練などに取り入れる。



『自分の身は自分で守る』を第一に、家族、近所の人へと意識を広げる事の大切さを、つくづく感じました。



来年度の計画実行の時には、**沢山の人に加わってもらい、楽しく取り組めるといいな。**



確実に防災意識が高まったと思うよ。今回作った企画書のような、具体的な防災計画の作成が地域には必要だと思った。

5位 我が家で1日避難生活

- ・「ライフラインが使えない中での避難生活」をテーマに、被災経験者を講師に、講演会を開催する。
- ・町内から参加者を募集し、訓練月間を決め、自宅で電気・ガス・水道を使わない生活を体験。その感想や工夫したことを共有する報告会を開催。この結果をふまえて、備蓄品リストを作成する。

6位 停電体験訓練

- ・停電時を想定し、必要となる物品をリストアップし、自宅に備蓄。
- ・電気を使わない生活を半日行い、困ったことや課題を整理し、対策を考える。
- ・再度電気を使わない生活を行い、検証する。

レスキューストックヤードからのメッセージ

災害時の過酷な避難生活を乗り切るためには、避難生活の実態を知り、少しでも快適に過ごせるよう、身近にあるものを工夫する知恵と力が必要です。

自宅や地域に、災害時に役立つ物がどれだけあるのかを調べたり、電気・ガス・水道の無い生活を試してみることは、沢山の気づきや工夫が生まれることでしょう。訓練には、女性の視点や、子どもたちの柔軟な意見も取り入れることをおすすめします。